

示される数値がAISスコアである。

(例) 大腿骨開放骨折：AISコード=851801.3 AISスコア (AISコードの小数点以下の数字) =3

AIS (Abbreviated Injury Scale)は、「AIS-90 update 98」を使うこと。(参考資料：日本外傷学会、(財)日本自動車研究所監訳「AIS90 日本語対訳版」へるす出版、東京、2003) 下表に代表的な記述病名に対するAISスコアの例を示す。

記述病名をISS計算に必要な頭頸部、顔面、胸部、腹部、四肢、体表の6つの身体部位に分け、身体部位ごとにAISスコアを入力すること。

大項目4の診断情報のうち(1)主傷病名、(3)入院の契機となった傷病名、(5)医療資源を最も投入した傷病名、(7)医療資源を2番目に投入した傷病名、に該当するAISスコアだけでなく、(9)(11)(13)(15)入院時併存症名1~4、に相当するAISスコアも身体部位別に入力する。ただし、一つの身体部位の中に複数の記述病名が存在する場合は、その中で最も高いAISスコアを入力する。

身体部位に損傷が存在するが、AISスコアを決定できないときは“9”と記載すること。

身体部位に損傷がない場合は“0”を入力すること。

記述病名に対するAISスコアの例(抜粋)

AISスコア	1	2	3	4	5	6
<頭頸部>						
頭蓋骨		単純骨折	頭蓋底骨折	複雑骨折		頭蓋骨および脳の広範囲損傷(挫滅)
硬膜外/下血腫			陥没骨折≤2cm	陥没骨折>2cm ≤50ml, ≤1cm	>50ml, >1cm 両側	
<顔面>						
上顎骨骨折		Le Fort I Le Fort II	Le Fort III	出血量>20%		
<胸部>						
肺挫傷 裂傷(片側)			片側 縦隔気腫あり	両側 縦隔気腫あり	緊張性気胸あり	骨格、血管、臓器、組織系すべての両側性高度損傷("挫滅"損傷)
裂傷(両側)				は縦隔気腫または縦隔気腫あり	緊張性気胸あり	
肋骨骨折 +血/気胸	1本	2-3本	≥片側4本 1-3本	≥両側4本 ≥片側4本	≥両側4本	
フレイルチェスト			肺挫傷なし	肺挫傷あり	両側	
<腹部>						
肝挫傷		被膜下≤50%	被膜下>50%			肝断裂(肝血管系の完全分離)
裂傷		≤3cm	>3cm	>3cm(多数)	複雑性	
脾挫傷		被膜下≤50%	被膜下>50%			脾門部損傷
裂傷		≤3cm	>3cm	血管損傷		
脾挫傷		軽度	高度	高度・膨大部	複雑性	
裂傷		軽度	中等度			
腎裂傷		尿管損傷なし ≤1cm	尿管損傷あり >1cm	腎杯・腎盂 血管損傷	腎莖部	
十二指腸		挫傷・血腫	下行脚損傷 1/2-3/4周	下行脚損傷 3/4周以上	複雑性	
		漿膜損傷	その他の損傷 1/2-全周	膨大部・総胆管		
小腸・結腸		挫傷・血腫	穿孔	裂傷		
<四肢・骨盤>						
骨盤		非開放性骨折	開放・粉碎骨折	血管断裂または後腹膜大量血腫を伴う変	出血量>20%	
大腿骨			骨折			
上腕・前腕		非開放性骨折	開放・粉碎骨折			
<体表>						
擦過傷・挫傷						
顔面・上肢	≤25cm ²	>25cm ²	出血量>20%			
下肢・体幹	≤50cm ²	>50cm ²	出血量>20%			
熱傷	I度(>1歳)	II度またはIII度10-19%	II度またはIII度20-29%	II度またはIII度30-39%	II度またはIII度40-89%	II度またはIII度(炭化を含む)≥90%

63) 化学療法の有無

ここでの化学療法とは、悪性腫瘍に対する抗癌剤の使用、ホルモン療法及び免疫療法等の補助療法とする。(抗生物質のみの使用等を含まない。) G003抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入が行われた場合を含む。

投与方法によって、「無」は“0”を、「有(経口)」は“1”を、「有(経静脈又は経動脈)」は“2”を、「有(その他)」は“3”を入力する。

「有(経口)」、「有(経静脈又は経動脈)」、「有(その他)」とあるが、複数実施した場合には、主治医の判断で主たるも